

**仙台市人事給与・庶務事務システム
構築・運用・保守業務**

落札者決定基準

仙台市

目 次

| | | |
|-----|--------------------------|---|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 評価基準 | 1 |
| (1) | 受注者の選考方法..... | 1 |
| (2) | 入札価格と技術的要件に対する得点配分 | 1 |
| (3) | 価格評価点の算出方法 | 2 |
| (4) | 技術提案評価点の算出方法..... | 2 |
| (5) | 欠格事項 | 4 |

1 はじめに

本書は、「仙台市人事給与・庶務事務システム構築・運用・保守業務委託」に係る落札者決定基準を取りまとめたものである。落札者決定基準に関する留意事項を以下に記す。

2 評価基準

(1) 受注者の選考方法

以下のとおり、公平かつ客観的に選定する。

- ア 本業務の総合評価一般競争入札の実施に係る総合評価委員会を設置する。
- イ 参加申出時に参加資格確認申請書等の書類を提出し、本市に参加資格が認められた提案者について、技術提案書審査、デモンストレーション審査を行う。
- ウ 「入札価格に対する得点（以下「価格評価点」という。）」及び「技術的要件に対する得点（以下「技術提案評価点」という。）」の総合評価とし、合計点が最も高い者に決定する。
- エ 落札候補者となるべき総合評価点の最も高い者が 2 者以上あるときは、くじ引きで決める。

(2) 入札価格と技術的要件に対する得点配分

価格評価点配分と技術提案評価点配分の比率を 1:3 とし、価格評価点に対する配点を 1,400 点、技術提案評価点に対する配点を 4,200 点（合計 5,600 点）とする。さらに技術提案評価点は、技術提案書審査（3,500 点）、デモンストレーション審査（700 点）に区分する。

図表 2-1 価格評価点・技術提案評価点の配分

| 評価点区分 | 評価項目 | 配点 |
|---------|--------------|---------|
| 価格評価点 | 入札価格 | 1,400 点 |
| 技術提案評価点 | 技術提案書審査 | 3,500 点 |
| | デモンストレーション審査 | 700 点 |
| 合計 | | 5,600 点 |

(3) 価格評価点の算出方法

価格評価点は入札書により、次のとおり算出する。ただし、予定価格を超過したものは、失格となり、落札者になることはできない。

$$\text{価格評価点} = 1,400 \times (\text{予定価格} - \text{入札価格}) / \text{予定価格}$$

※価格評価点において、小数点以下は切り捨てとする。

(4) 技術提案評価点の算出方法

技術提案評価点は、以下の方法で算出する。

ア 技術提案書審査

技術提案書の審査及び評価は、本業務の総合評価一般競争入札の実施に係る総合評価委員会委員が以下のとおり行う。

(ア)別紙 1「技術提案書評価基準表」に記載の各項目について、個別に評価を行い、評価点を与える。評価点は以下のとおり計算する。

- ① 提案書の記載内容について、技術提案書評価基準表の「評価基準の区分」において「必須」とした項目に対し、評価基準を満たしているかを確認する。
- なお、技術提案書評価基準表の評価項目ごとに評価基準に記載した事項が 1 つでも記載されていない場合は、「×」とする。

図表 2-2 技術提案書審査「必須」項目の採点基準

| 提案の評価 | 配点 |
|-------------------------|-------|
| ○：評価基準に示した事項が記載されているもの | 100 点 |
| ×：評価基準に示した事項が記載されていないもの | 0 点 |

- ② 技術提案書評価基準表の「評価基準の区分」において「加点」とした項目に対し、5段階の区分の評価で以下に示す採点基準に従い採点する。

図表 2－3 技術提案書審査「加点項目」の採点基準

| 提案の評価 | 配点 | | |
|----------------------|---------|---------|--------|
| | 150 点満点 | 120 点満点 | 60 点満点 |
| A：特に優れているもの | 150 点 | 120 点 | 60 点 |
| B：優れているもの | 100 点 | 80 点 | 40 点 |
| C：標準的に評価できるもの | 75 点 | 60 点 | 30 点 |
| D：部分的に評価できるもの、やや劣るもの | 30 点 | 24 点 | 12 点 |
| E：評価できないもの | 0 点 | 0 点 | 0 点 |

- (イ)別紙 1「技術提案書評価基準表」の評価項目のうち、機能要件に係る評価については、以下の式により求め、小数点以下は切り捨てとする。

図表 2－4 評価項目「機能要件（必須要件）」の採点基準

| 区分 | 機能要件の実現方法 | | 配点 |
|----|---------------------------------|------------------------------|------|
| ◎ | 提案日現在、パッケージシステムの標準機能等で実装している。 | | 10 点 |
| ○ | 構築期間中に、パッケージシステムの標準機能等で実装する。 | | 5 点 |
| ☆ | EUC 機能（※1）により対応する。 | | 3 点 |
| △ | 構築期間中に、カスタマイズにより実装する。 | | 2 点 |
| × | システムでは実装不可能なため、代替手段により実現する（※2）。 | 代替手段が具体的に示されており、本市が許容できる。 | 1 点 |
| | | 代替手段が示されているが、本市が許容できる手段ではない。 | 0 点 |

※1 EUC（End User Computing）機能とは、IT に関する特別な知識やスキルを有しない一般職員が、要求する帳票やデータを簡易な操作で直接出力できるものをいう。この要件を満たすものであれば具体的な方法は問わない（事業者が提供する Access や Excel 等の簡易ツールによる対応等でも可）。

※2 代替手段の記載がない場合は、欠格事項に該当する場合がある。

当該項目の得点＝
機能要件（必須）に係る得点配分（1,000 点）×（配点の採点合計／配点の満点（6,140 点））

図表 2-5 評価項目「機能要件（オプション要件）」の採点基準

| 区分 | 機能要件の実現方法 | | 配点 |
|----|-------------------------------------|---|------|
| ◎ | 提案日現在、パッケージシステムの標準機能等で実装している。 | | 10 点 |
| ○ | 構築期間中に、パッケージシステムの標準機能等で実装する。 | | 5 点 |
| ☆ | EUC 機能により対応する。 | | 3 点 |
| △ | 構築期間中に、カスタマイズにより実装する。 | | 2 点 |
| × | システムでは実装不可能なため、代替手段により実現する、又は実装しない。 | 代替手段が具体的に示されており、本市が許容できる。 | 1 点 |
| | | 代替手段が示されていない。 代替手段が示されているが、本市が許容できる手段ではない。 | 0 点 |

当該項目の得点＝

機能要件（オプション）に係る得点配分（150 点）×（配点の採点合計／配点の満点（1, 130 点））

イ デモンストレーション審査

別紙 2「デモンストレーション実施要領」に定める。

(5) 欠格事項

次に該当するものは、審査を実施する前に失格とする。

- ・ 期日までに必要な書類を提出しない者
- ・ 技術提案書作成要領に記載している提案事項が十分に記載されていない者
- ・ 仕様書に示す本市の要求に応じた提案がなされていない者
- ・ デモンストレーション審査に応じなかった者
- ・ 費用見積書の金額が予定価格を上回る者

以上